

interview

藤田清志

代表取締役社長



(前編の続き)

「藤工業グループの今があるのは、経営幹部、共に働く従業員や従業員の家族、仲間、そして支えてくれている多くのお客様のおかげです」。

お客様をはじめ、社員やその家族、仲間たちを大事にする藤田清志代表取締役社長。その思いは、どのように育まれていったのでしょうか。そして今後、会社が目指すべき未来の姿とは。

藤田社長は、工場の立ち上げにも数多く携わってこられました。何もないところから作り上げていくことの楽しさは、どういった部分にありましたか。

ゼロから何かを作るのは、大変さの方が大きかったと思います。秋田工場は、お客様がいないのはもちろん、作っていたのは鉄筋ではなく鉄線でしたので、まるっきり知らない分野だったのです。岩槻工場（現第一工場）での仕事もあったので、2つの工場を行き来しながら、ひたすら足で

稼いでいきました。宮城や北海道、群馬のときに必ず経営幹部を派遣するようになったのは、このときの苦労があったからです。

地域に根付いて事業が軌道に乗ってくると、いろいろと展開していく楽しさが味わえます。宮城工場は震災復興の需要が見込まれましたし、北海道は父の出身地ということもあって、親孝行も兼ねて工場を立ち上げました。また、鉄筋工事だけではなく、基礎から上棟までを一貫して手掛けた



いとの思いから、新潟にある企業とタッグを組み、エフテック株式会社を群馬の伊勢崎に立ち上げました。

社長就任後、印象に残っている取り組みはありますか。

新型コロナウイルスが流行する前に行った管理者を対象としたリーダー研修が、私自身にとっても会社にとっても大きくプラスになったと感じています。人づくり、リーダーとしてのあり方を、座学だけでなく体感型アクティビティも交えながら、身体に落とし込む研修を1年間かけて行いました。人が追い込まれたときに、どれだけ共に働く仲間の大切さ、チームワークの大切さ。心と身体にズシンとくる研修でした。受講した参加者は、自分のこれまでの甘さを反省し、絶対に諦めないメンタルの強さ、最後までやり通すこと、そして、仲間の大切さ、を手に入れて帰ってきました。

この研修は今でも実施しており、会社のグループごとに、チームとしてのまとまりと生産性の向上をもたらしてくれています。研修を主催している加藤秀視さんは、私のメンターでもあり、さまざまな刺激を与えてくれている方です。

これから先の、グループ全体の理想の姿をどのように思い描いていますか。

今の段階では、各工場が自走してくれることが私の願いです。リーダー研修で学んだ「チームビルディング、マイクロリーダーの考え方」工場長を中心に、自工場、自部署を1つの会社に例えて仕事に誠心誠意向き合っていただきたいと思っています。これまで父、私とトップダウン型でやってきましたが、この先も同じ形で進めていくのは、正直、難しいと思っています。もちろん、そこにはまとめ役が必要です、各部署、各工場単位で、小さな会社として自走できるようにしておきたいというのが今の考えです。

加藤さんの教えの1つに、「人は、いつからでも変わる」という言葉があります。ただし本人が変わろうとしなければ、人は変わることができま

せん。リーダーが変われば組織も変わる、何かが起こっても、相手を叱る前にまず自分に非はないのかを常に考えていける人間、お客様や社員とその家族、仲間たちのことを第一に考えられる人間……。そういった人たちが一人でも多く増えてくれることを期待しています。

最後に、偉くなっても奢ることなく、いつまでも謙虚な心（言葉）、感謝の心（言葉）を絶対に忘れないでください。「ありがとう」という感謝の気持ちをお客様、共に働く仲間、そして自分の家族、仲間に伝え続けてください。

藤田社長自身の、今後の目標をお聞かせください。

日本一の鉄筋屋になるのが私の夢です。建物は、やはり自分たちの手で建てたいと思っています。建物の基礎から躯体まで、すべてを担える会社にしていければという思いから、2年前に私は1級建築施工管理技士の資格を取得しました。いつか社員の家を建ててあげられたら最高ですね。

私自身もそうですが、みんなが夢を語り、その夢を実現できる会社にしていきたい。会社の未来像・会社のあるべき姿「人に幸せを夢実現企業」それを達成することが目標です。あと個人的な夢は、大好きな沖縄でゆっくりすることですかね（笑）

会社の将来を担う若い人材を、積極的に採用していきたいと語る藤田社長。藤工業グループ関わる全ての人々に「最高の満足と感動」をもたらすために、そして「人に幸せを夢実現企業」を実現するために、藤工業株式会社、藤工業グループの未来への挑戦は続いていきます。



拠点紹介 ～北海道工場編～

各拠点を紹介するこの企画!今回は北海道工場のご紹介です!
北海道工場独自の取り組みや強みとは一体……?
さらに注目社員にもご登場いただき、北海道工場の魅力を深掘りします!



私が紹介します!



北海道工場の人員構成と主な業務内容

住宅ユニット鉄筋がメイン

実習生4名、事務員が私を含めて3名、加工員1名、ドライバー1名、派遣社員の加工員1名の合計10名です。業務内容は幅広く行っていますが、住宅ユニット鉄筋とスポット溶接の業務がメイン。北海道工場の売り上げに最も繋がっているのは住宅ユニット鉄筋です。その他、主な業務の1つに加工筋もあります。

北海道工場独自の取り組み

親睦を深める

北海道工場は挨拶やコミュニケーションを大事にしているため、3か月に1回、皆でご飯に行ったりレクリエーションを行ったりしています。親睦を深め、お互いのプライベートを知れることで、より接しやすく働きやすくなったと感じます。

注力していること

持ちつ持たれつの良い関係

誰かが困っていれば助けるという考えを皆が持って、仕事に取り組んでいるところが強みです。指示がなくても自発的にサポートし合っています。工場の雰囲気良く、上下関係よりも横の関係が強いのです。

北海道工場の今後の目標

皆で力を合わせてライバルに勝つ

実習生の頑張りは素晴らしいのですが、言葉の壁があるため、日本人雇用が多いのが現状です。また、ライバルグループとの売り上げの差を感じることもあります。そのため、人材を揃え「負けていないよ」と、他部署に言うようになることが目標です。新しい仕事を嫌がらず、皆で頑張っていくスタンスをこれからも大事にしていきたいと思っています。

普段の業務内容

普段はプレキャストコンクリート(PC)の中に入る鉄筋の組み立てを行っています。現場でマンションやビルを建てる時に、事前に工場鉄筋を組み上げ、枠に鉄筋を入れます。プレキャストのため圧力をかけながらコンクリートを流し込み、作り上げたものを現場で接続するのが私たちの仕事です。

注力していること 怪我防止と正確性

まずは、誰一人として指1本の怪我もしないこと。私自身、過去に転んだり頭を打ったりしているため、周りの人には怪我をしてほしくありません。次に製品の精度です。速さよりも正確性が大事ということを重視しています。速さは後からついてくるものですが、正確性がないと次の仕事なくなる可能性があります。班によっては、まだ甘いところもあるので、引き続き注力していこうと思います。大事なものは全体を俯瞰してみる。慣れるとどうしても流れ作業になってしまいがちですが、1つのことに集中しすぎず、全体を見ることが大事です。

今後の目標

工場内での作業時、移動するときや進むとき、進行方向にいる相手が、こちらを見ていない場合があります。その際は、自分の位置を知らせるために、とにかく声を出すことを徹底しています。また、仕事量に偏りが発生するときがあるので、安定的に仕事を獲得していきたいと思っています。

注目社員を紹介

みうら りょう
三浦 凌さん



全国鉄筋技能大会 Tetsu-1GP 出場者の意気込み!



東京鉄筋工業協会(鉄工協)第7回鉄筋技能大会建築部門で、見事に優勝した岡本さん。過去の出場から課題となるスピードアップを意識して練習を重ね、ついに快挙を成し遂げました。Tetsu-1GP(全国鉄筋技能大会)への出場権も獲得し、日本一の鉄筋技能者を目指す岡本さんに迫ります!

おかもと けいじ
女鹿野工業 岡本 圭司さん

第7回鉄工協鉄筋技能大会で優勝し、Tetsu-1GPに出場が決定した現在の心境

鉄工協鉄筋技能大会は、前々回から出場し、それぞれ2位と3位で優勝はできなかったため、ついに優勝できて嬉しく感じています。「優勝できるのでは」という気持ちはありましたが、確信を持ってなかったためほっとしました。周囲の方からも「やっただね」と声を掛けていただきました。

優勝のために重点を置いたこと

スピード

練習では1時間5～6分まで縮めましたが、1時間を切ることを目標に練習してきました。細かい性格が強みとなり、速さを優先してもある程度の精度は保てたので、スピードアップに集中しました。社長が練習を継続的にサポートしてくださいました。日曜日に実施し、大会当日までに30回は鉄筋を組んだのではないのでしょうか。社長自身、鉄筋を組むスピードが速く、「もっと速く組める!」と練習中に発破を掛けてくださいました。社長が実際に組んで教えてくださったこともあるのですが、速さは勝てませんが精度は自分の方が高いと感じました(笑)



Tetsu-1GPへの対策

課題はやはりスピードアップ

力を抜けるところでは抜くようにし、タイムを短縮できるポイントでしっかりとスピードを上げながら、一つひとつの動きを1秒でも短縮できればトータルタイムは短くなると思っています。鉄筋の組み立ての中でも柱と梁の結束部分が他の人より少し遅いため、そこを縮めることが目標タイム達成の鍵になると思います。大会までの残りの期間でがむしゃらに練習していきます。



Tetsu-1GP出場への意気込み

前回の出場では、表彰台に立てなかったため、今回こそ表彰台に!そして、優勝して社長を見返したいと思っています(笑)同僚や家族も応援してくれている中、良い結果を出して喜ばせることができたらと思います。

